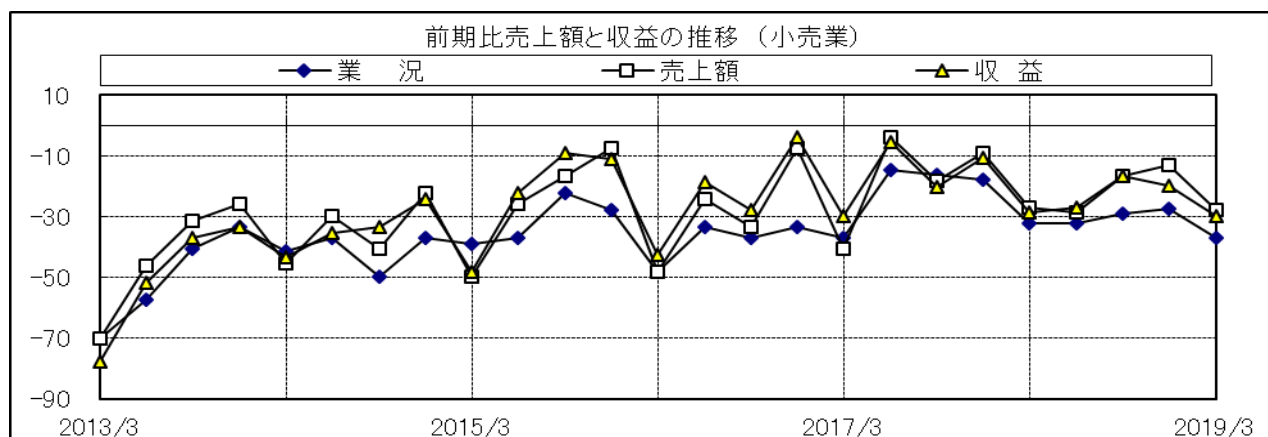


小売業 54企業（回答率 100%）の調査結果です

□ 景況

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期実績
業況	-29.1	-27.2	-36.9	-22.2
売上額	-16.5	-12.9	-27.8	-12.9
収益	-16.5	-20.0	-29.7	-9.2

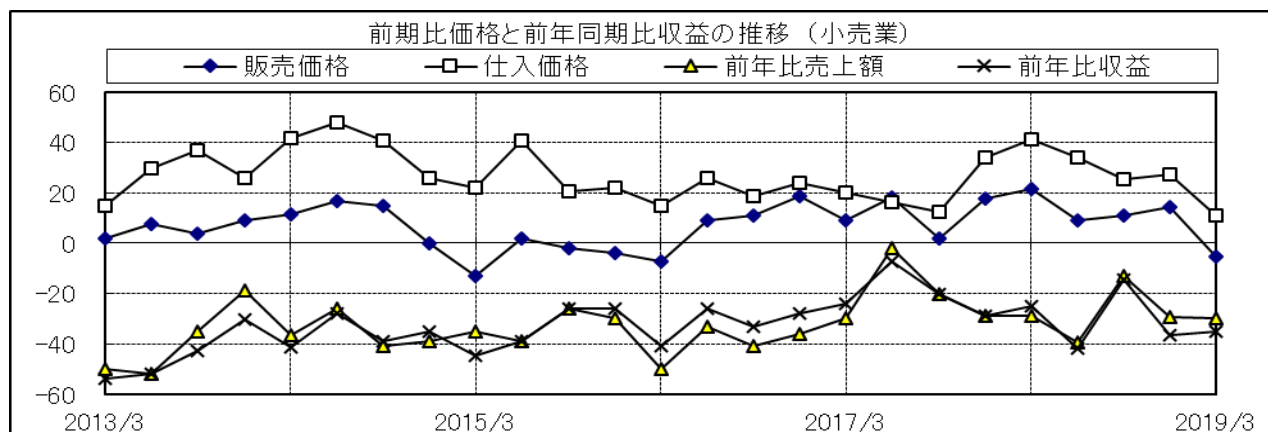
今期の業況判断 D. I. は△36.9 で、前期比 9.7 ポイント下降、前年(△32.1)比 4.8 ポイント下降した。地区別の D. I. は高い順に、様似が最も高く、えりも、三石、広尾、静内と続き、浦河が最も低い水準となった。売上額判断 D. I. は△27.8 で、前期比 14.9 ポイント下降。収益判断 D. I. は△29.7 で、前期比 9.7 ポイント下降した。



□ 価格面の動き・前年同期と比べた動き

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
販売価格	10.9	14.6	-5.5	11.1
仕入価格	25.4	27.4	11.1	22.2

販売価格判断 D. I. は△5.5 で前期比 20.1 ポイント下降、前年(21.4)比 26.9 ポイント下降した。仕入価格判断 D. I. は 11.1 で前期比 16.3 ポイント下降、前年(41.1)比 30.0 ポイント下降した。業種別の価格は、家電品は販売価格が上昇、仕入価格は下降。衣料品・食料品は販売・仕入価格ともに下降した。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
残業時間	-1.8	-16.4	-1.9	-5.6
人手状況	-10.9	-18.2	-26.0	-24.1

残業時間判断 D. I. は△1.9 で、前期比 14.5 ポイント上昇し、残業時間が増加したとする企業割合が増えた。

人手過不足判断 D. I. は△26.0 で、前期比 7.8 ポイント下降し、人手不足感が一層強まった。

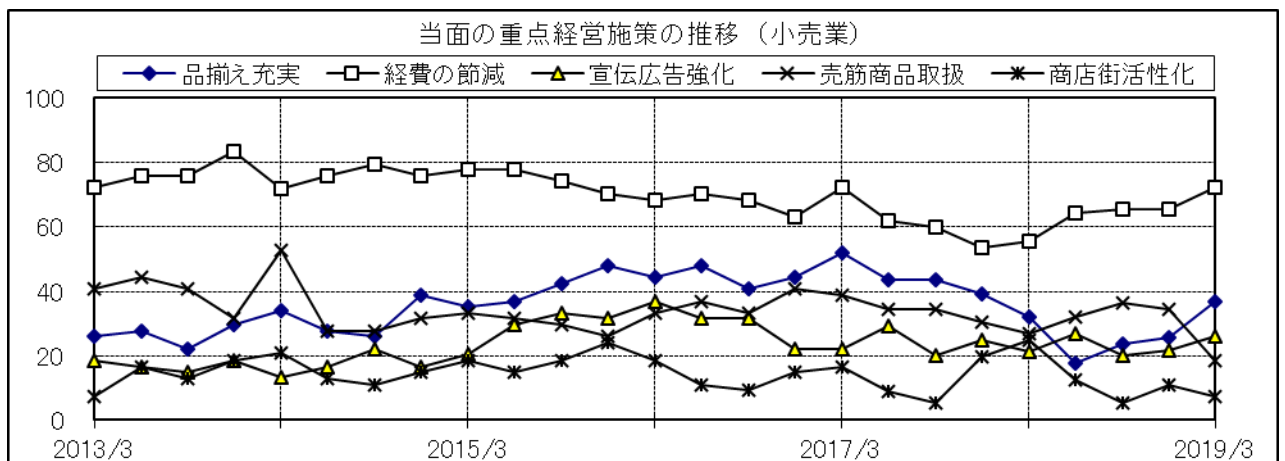
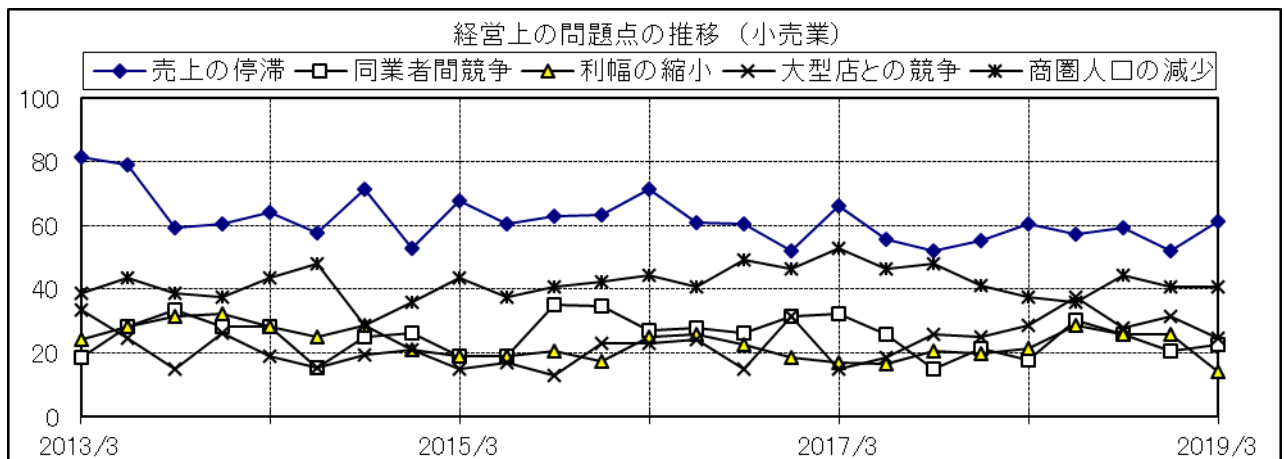
□ 設備投資の動き

設備投資の充足感を示すD. I. は $\Delta 18.5$ で、前期($\Delta 12.7$)比5.8ポイント下降した。

設備実施企業割合は1.9で、前期(3.6)比1.7ポイント下降した。設備投資は、前期2社に対し1社の実施となった。来期の設備投資の予定は3社となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が61.2%と最も多く、「商圈人口減少」40.8%、「大型店競合」24.5%、「同業者競合」22.4%、「利幅縮小」14.3%、「商店街集客力低下」・「人手不足」・「取引先減少」12.2%、「地場産業衰退」8.2%、「値上り要請」・「天候不順」6.1%となっている。重点経営施策では、「経費節減」が72.2%と最も多く、「品揃え改善」37.0%、「宣伝広告強化」25.9%、「売れ筋商品取扱」18.5%、「仕入先開拓選別」・「人材確保」11.1%、「商店街活性化」7.4%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は $\Delta 22.2$ と、今期比14.7ポイントの上昇を見通している。

予想売上額判断D. I. は $\Delta 12.9$ と、今期比14.9ポイントの上昇を見通している。

予想収益判断D. I. は $\Delta 9.2$ と、今期比20.5ポイントの上昇を見通している。

予想販売価格判断D. I. は11.1と、今期比16.6ポイントの上昇を見通している。

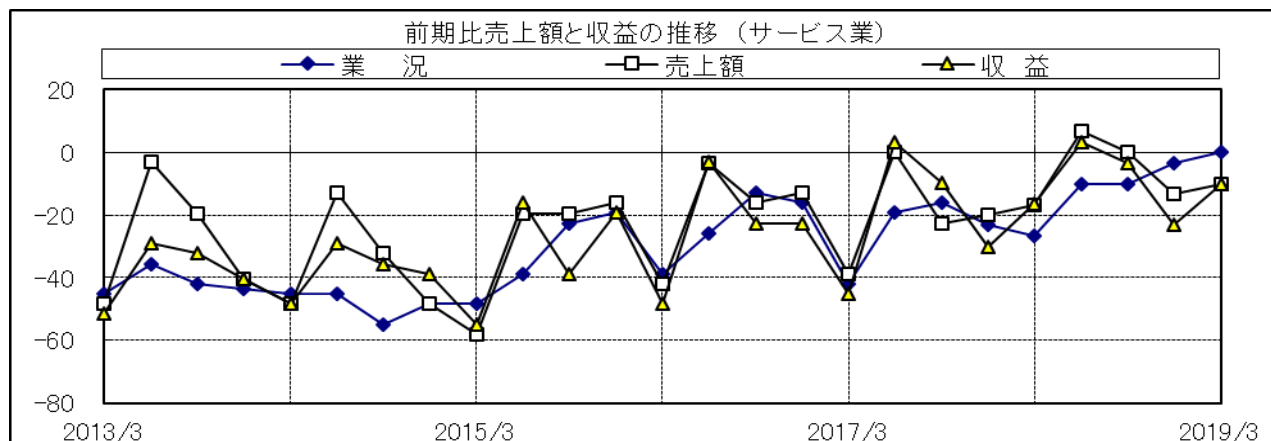
予想仕入価格判断D. I. は22.2と、今期比11.1ポイントの上昇を見通している。

サービス業 30 企業（回答率 100.0%）の調査結果です

□ 概 況

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
業 況	-10.0	-3.4	0.0	0.0
売上額	0.0	-13.3	-10.1	6.7
収 益	-3.4	-23.3	-10.1	3.4

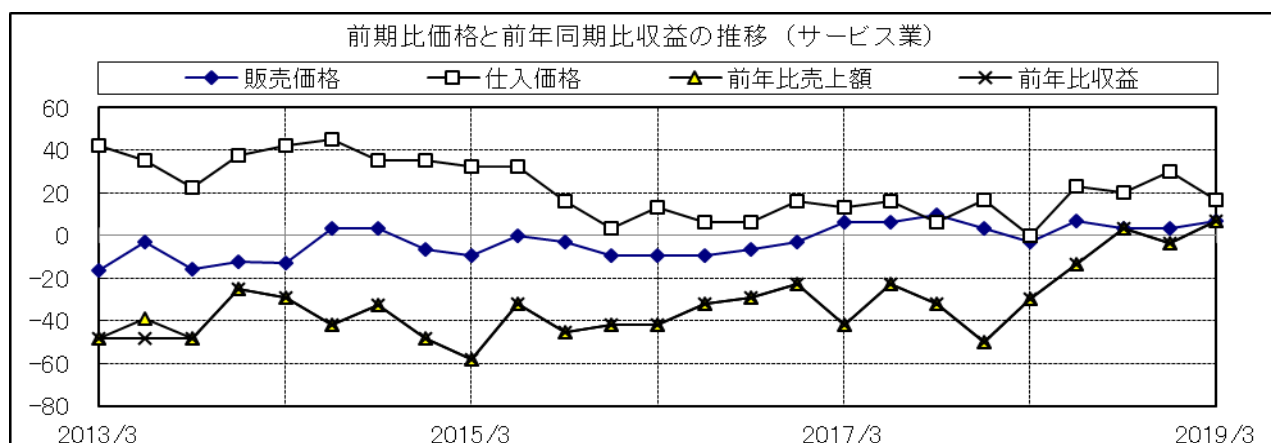
今期の業況判断 D. I. は 0.0 で、前期比 3.4 ポイント上昇、前年(△26.7)比 26.7 ポイント上昇した。地区別の D. I. は高い順に、浦河が最も高く、静内、えりも、広尾が同率で続き、次に類似、三石が最も低い水準となった。売上額判断 D. I. は△10.1 で、前期比 3.2 ポイント上昇した。収益判断 D. I. は△10.1 で、前期比 13.2 ポイント上昇した。



□ 価格面の動きと前年同期に比べた動き

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
料金価格	3.3	3.4	6.7	3.3
材料価格	20.0	30.0	16.7	10.0

料金価格判断 D. I. は 6.7 で、前期比 3.3 ポイント上昇、前年(△3.3)比 10.0 ポイント上昇した。材料価格判断 D. I. は 16.7 で、前期比 13.3 ポイント下降、前年(0.0)比 16.7 ポイント上昇した。業種別では、旅館業は料金が横這い、材料は上昇。洗濯理美容業は料金・材料ともに下降。自動車整備業は料金が上昇、材料は下降した。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
残業時間	6.7	0.0	3.3	-3.4
人手状況	-13.3	-30.0	-13.3	-16.7

残業時間判断 D. I. は 3.3 で、前期比 3.3 ポイント上昇、残業時間が増加したとする企業割合が増えた。

人手過不足判断 D. I. は△13.3 で、前期比 16.7 ポイント上昇し、人手不足感が弱まった。

□ 設備投資の動き

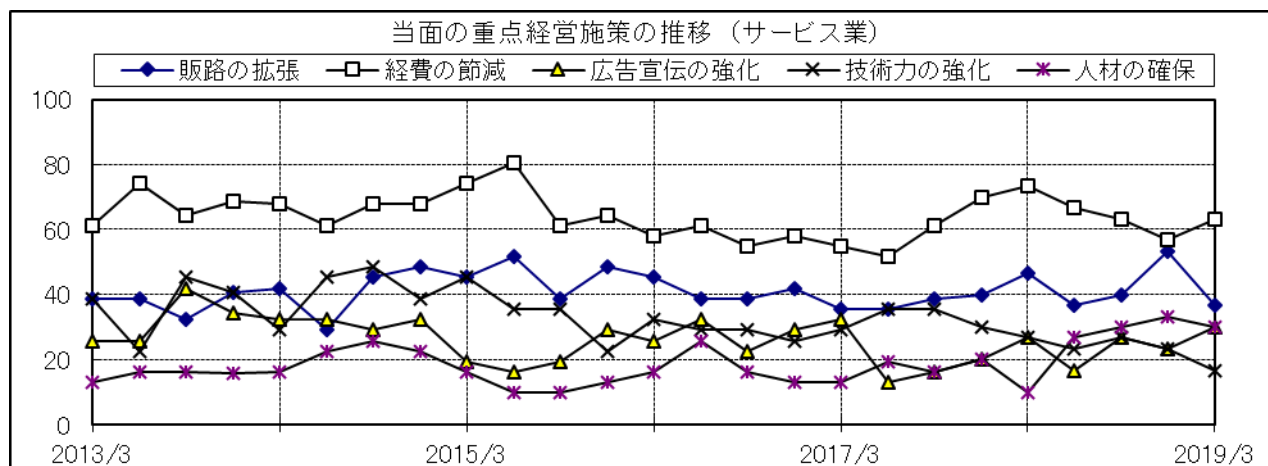
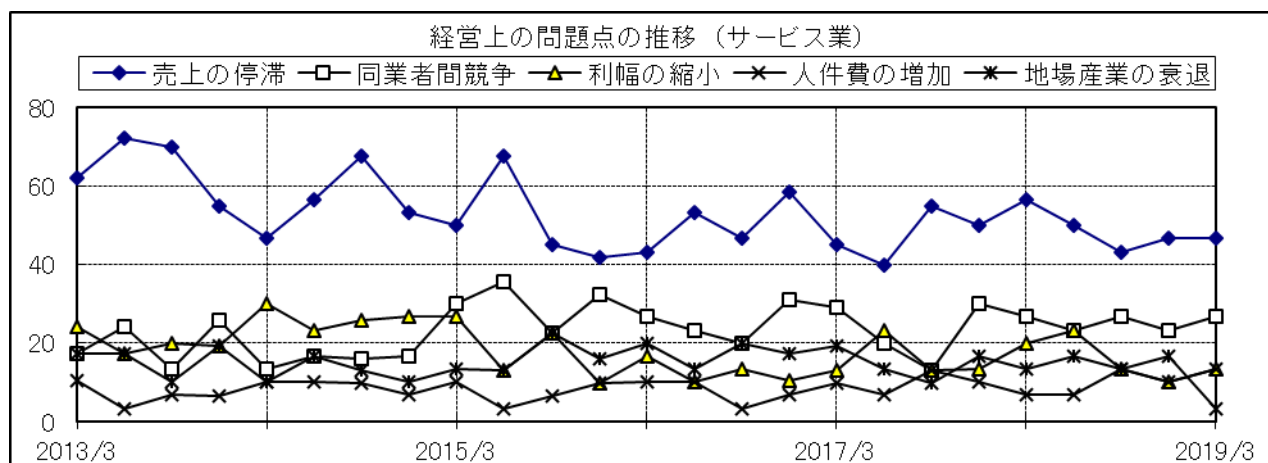
設備投資の充足感を示すD. I. は $\Delta 0.1$ で、前期(0.0)比0.1ポイント下降した。

設備投資実施企業割合は13.3で、前期(13.3)と同水準となった。設備投資は、前期4社に対し、4社の実施となった。来期の設備投資は4社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が46.7%と最も多く、「商圈人口減少」40.0%、「人手不足」30.0%、「同業者競争」26.7%、「材料価格上昇」20.0%、「利幅縮小」・「人件費増加」13.3%、「店舗設備老朽化」10.0%、「合理化不足」・「技術力不足」・「天候不順」6.7%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が63.3%と最も多く、「販路拡大」36.7%、「人材確保」・「宣伝広告強化」30.0%、「技術力強化」・「教育訓練強化」16.7%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は0.0と、今期と同水準を見通している。

予想売上額判断D. I. は6.7と、今期比16.8ポイントの上昇を見通している。

予想収益判断D. I. は3.4と、今期比13.5ポイントの上昇を見通している。

予想料金価格判断D. I. は3.3と、今期比3.4ポイントの下降を見通している。

予想材料価格判断D. I. は10.0と、今期比6.7ポイントの下降を見通している。